

能登地震1年

災害関連死を含む504人の命が奪われた能登半島地震は1日、発生から1年となった。石川県輪島市で県主催の追悼式が営まれ、参列者は地震発生時刻の午後4時10分に地震と昨年9月の豪雨による犠牲者に黙とうをささげた。人々は一日も早い復興を願った。



能登半島地震の発生時刻に合わせて営まれた犠牲者追悼式（1日午後4時10分、石川県輪島市で）＝富永健太郎撮影

被災各地で追悼

輪島

1日午後3時40分過ぎ、輪島市の日本航空学園能登空港キャンパスで追悼式が始まった。遺族317人や馳浩知事のほか、石破首相、岸田文雄・前首相ら来賓128人が出席した。県内では、地震で関連死を含め498人が死亡、2人が行方不明になり、豪雨災害では16人が死亡した。

穴水町で衣料品店を営み、地震で父・洋一さん(当時82歳)を亡くした小林由紀子さん(53)が遺族代表の言葉を述べた。全壊した店の再建をあきらめかけたが、地域住民らの励ましに前を向き始めているという。「夫と共に店を守り抜き、地域の皆さんと共に歩んでいく。それが亡くなった父への感謝であり、地域の皆さんへの恩返しだと考えています」と時折声を詰まらせながら語った。

沖繩県から訪れた会社員大田和真さん(31)は、輪島

珠洲

市に住んでいた父・坂下千春さん(当時51歳)を亡くした。「真面目で誠実な父。ゆっくりとお互いの話をしたかった」と話した。

珠洲市の見附島を望む海岸では、午後4時10分を迎えると黙とうする人の姿が見られた。金沢市のトラック運転手蟹雅之さん(65)は「崩れた島を見て、さみしさがこみ上げた」と述べた。献花台が設けられた珠洲市の大谷小中学校では、中学時代からの友人を亡くした同市の徳保優子さん(77)が「もう会えないと思うとさびしい。今年は何事もなく平穏な1年になることを祈りたい」と手を合わせた。

七尾

七尾市の和倉温泉では、旅館関係者や住民ら約200人が地元の神社に集まった。地震発生時刻に合わせて、雨の中、傘を差しながら黙とうをささげた。



悼む 16時10分

輪島朝市通り周辺

大規模火災が起きた現場近くで犠牲者に祈りをささげる住民ら—関口寛人撮影



犠牲者追悼式(輪島市で)

石川県主催の追悼式で黙とうする参列者たち—代表撮影



道の駅輪島

能登半島地震の発生時刻に黙とうするボランティアや地元の人たち—尾賀聡撮影



亡くなった叔父の自宅を訪れ、手を合わせ、道端殺さん一家。妻の裕子さんは「1年がたつけれど、思いは変わらぬ。助けられなくとも、そしてありがた」と涙り出した—大金史典撮影

珠洲市宝立地区

珠洲市の避難所

追悼式の中継に合わせ黙とうした菅自愛子さん(左)と大畑朝子さん。「1年間は長いようで、短いようで複雑な気分だったね」と2人で話した—桐山弘大撮影

